

第1章 聖徳グループ保育理念

評価基準 A. はい B. いいえ C. 該当なし

		項目	ページ	評価	評価・課題
第1章	聖徳グループ保育理念	園の保育理念や基本方針 真宗保育の理念 聖徳グループ職員という意識 職務分担	1~10	A	出勤後、お内仏に手を合わせ、保育理念をミーティングで唱えていることで理解が深まりつつある。協力して保育を進めるため、以上児未満児会議を設け、相談し合える環境である。

第2章 総則

		項目	ページ	評価	評価・課題
第2章 総則	① 保育所保育に関する基本原則	保育所保育に関する基本原則 ・ 保育所の役割 ・ 保育の目標 ・ 保育の方法 ・ 保育環境 ・ 保育所の社会的責任	11~22	A	自園の保育のねらいや内容を理解する会議を定期的に持つことが出来た。実践に至らなかったところもあるので、今後も理解を深める会議を持ち続けたい。保育所保育指針の理解も深めていく必要がある。
	② 養護に関する基本的事項	養護に関する基本的事項 ・ 養護の理念 ・ 生命の保持 ・ 情緒の安定	23~35	A	月齢に合わせた一人一人の年間養護計画を作成し、又毎月それぞれの成長に合わせた月別の計画を立て目標を達成できるよう丁寧に関わっていた。
	保育の計画及び評価	・ 全体的な計画の作成 ・ 指導計画の展開 ・ 保育内容等の評価 ・ 評価を踏まえた計画の改善	36~41	A	全体的な保育計画のもと、子ども達の姿をクラスごとに話し合って計画を立てて保育を行っていた。
	保育の計画及び評価	保育の内容 ① 保育の環境	42~50	A	保育の環境整備は季節ごと教材の内容やレイアウトを変え、選択できる環境や発達に合った物的環境を意識した。
		保育の内容 ② 乳児保育	51~72	A	保護者との信頼関係を築き連携を取りながら一人一人日成長に合わせた快適で安心できる環境で保育していた。
		保育の内容 ③ 長時間保育	73~78	A	子ども達が安心し、寂しさを感じない楽しい雰囲気味わえる保育を行った
		保育の内容 ④ 障害がある子どもの保育	79~89	A	個別支援計画を立て、園全体で把握している。保護者からの相談もその都度対応し信頼関係が作れている。
		保育の内容 ⑤ 子どもの人権	90~96	A	子どもの人権に配慮した保育が出来ていた。

第3章 保育の内容

		項目	ページ	評価	評価・課題
		乳幼児期に関わるねらいと内容	97~112	A	安心できる人的環境を整えた保育と主体性を受け入れた子育てを意識してきた。
		教育 3歳未満児保育（1.2歳児保育） ① 健康	113~125	A	一人一人の気持ちを汲み取り、主体性を受け入れた保育を心掛けてきた。どこまで受け入れるか話し合い、ルールと主体性の線
		教育 3歳未満児保育（1.2歳児保育） ② 人間関係	126~142	A	
		教育 3歳未満児保育（1.2歳児保育）	143~158	A	

第3章 保育の内容	保育の内容 ねらい	③ 環境			
		教育 3歳未満児保育（1.2歳児保育）	159～177	A	引きを行った。集団遊びではルールを知らせながら相互間の思いに気づき楽しめるように配慮した。異年齢児交流から思いやる心を育む経験もできた。個別保育の中では発達に合わせた様々な教具を通して成長を促すことが出来た。
		④ 言葉			
	保育の内容	教育 3歳未満児保育（1.2歳児保育）	178～190	A	
		⑤ 表現			一人一人の気持ちを汲み取り、主体性を受け入れた保育を心掛けてきた。どこまで受け入れるか話し合い、ルールと主体性の線引きを行った。一人一人の発達に合わせた関わりを持つことで優しさや思いやる心を伝え、個別保育を通して生活に必要なルールや文化、作法を伝える事が出来た。また行事を通して充実感や達成から、自信に繋がっていく様子が見られた。
		教育 3歳以上児保育	191～203	A	
		① 健康			
	保育の内容	教育 3歳以上児保育	204～220	A	
		② 人間関係			
		教育 3歳以上児保育	221～236	A	
	保育の内容	③ 環境			
		教育 3歳以上児保育	237～255	A	
		④ 言葉			保育過程など自信のない職員もいる。園内研修などで行ってきたい。
	保育の内容 の留意事項	教育 3歳以上児保育	256～268	A	
		⑤ 表現			
		① 保育課程	269～273	A	
	保育の内容 の留意事項	② 指導計画 策定	274～291	A	指導計画は、年間計画に基づいて作成し、子どもに対して丁寧に関わるよう心がけてきた。
		小学校との連携	292～300	A	小学校交流の参加、保育要録を通して就学時の様子を伝えた。また、5歳児研修で育ってほしい10の姿を確認し、保育に取り入れた。
		保育内容の自己評価	301～309	A	自己評価の意味を知り、振り返る事で次年度に繋げていく事を理解している。また職員同士が気軽に相談や質問のできる環境にある。

第4章 健康及び安全

		項目	番号	評価	評価・課題
第4章 健康及び安全	子どもの健康支援	子どもの健康支援	310～321	A	定期的な身体の記録や感染症発生時は速やかに保護者に掲示し知らせている。また児童表に成育歴など保管してあり把握している。
	食育の推進	食育の推進	322～335	A	クラスで野菜を作り食したり。給食の食材を切るなど食に興味・感謝がもてる活動を行った。
	環境及び衛生管理	環境及び衛生管理	336～341	A	遊具の消毒を定期的に行い衛生面で配慮した。暑さや感染症対策を行い、園児が快適に過ごせる保育を行っていった。
	災害への備え	・安全管理 ・災害への備え	342～349	A	毎朝安全チェックを行っている。また避難・防犯訓練・備蓄の点検を定期的に行い、災害に備えている。

第5章 保護者に対する支援

		項目	番号	評価	評価・課題
第5章 保護者に対する支援	入所している保護者に対する支援	保育園に入所している子どもの保護者に対する支援	350～361	A	保護者には丁寧に関わり、相談があった時には静かな環境で話が聴けるよう配慮している。内容については全職員で共有し、児童表などに記録として残している。
	地域における子育て支援	地域における子育て支援	362～365	A	一時保育や子育て支援に力を入れ、昨年度よりも利用者が定着した。虐待については研修後、職員会議で共有することで理解している。
	地域や関係機関との連携	地域や関係機関との連携	366～371	A	年度初めに地域の方に挨拶に行き、散歩などでは子ども達も一緒に挨拶を交わすことが出来た。中高の保育体験受け入れも行った。

第6章 職員の資質向上

		項目	番号	評価	評価・課題
第6章 職員の 資質向上	職員の 資質向上	・ 職員の資質向上 ・ 職員の研修 ・ 研修の実施体制	372～385	A	キャリアアップ研修の受講は予定通り終了し、園内研修も必要な内容を行うことが出来た。園内研修を定期的に行い、内容の共有も出来た。

【園全体の評価】

・ 職員が、保育園の目標について話し合うことで現状の問題点を把握し、共有することができた。

職員同士の関係が構築されてきており、子どもの姿などを共通理解して保育に励んでいる。子ども主体の保育を意識して日常的なかかわりを模索している姿もあり、グループ全体での真宗保育・自主的個別保育についての理解を高めていく必要がある。

【来年度の課題】

聖徳グループの保育方針、保育運営等を共通理解するために、全職員が一同に会して時間を共有することができるため、来年度は、共有したことをもとに同じ方向性で保育をすすめていけると考える。パート保育士も、常勤保育士も統一した保育の関わりをしていけるよう、定期的な振り返り、評価、を行っていく必要がある。また、業務の見直しの完了と、改定書類の確認、的確な運用と、指導者のマネジメント力の向上を図っていく。

2025年度2月25日

社会福祉法人聖徳福祉会

聖徳保育園 羽根坂 友紀子